

外国語科（コミュニケーション英語Ⅰ）学習指導案

単元名 LESSON 6 We Are the World (8/8)

NEW ONE WORLD Communication I

日時 平成29年10月19日(木) 2校

対象 1年4組

場所 1年1組教室

指導者 今田 寿夫

(1) 本単元の構想

「CAN-DO リスト」の形式による学習到達目標における位置付け

- ・自身が体験したことやそれに対する感想について、事前に準備した原稿を見ないで、相手に伝わるように速度や明瞭さを意識して発表できる。



単元の目標

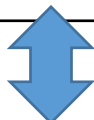
- ①身近な課題について、「高校生として何ができるのか」というテーマについて、自分の考えを英語でまとめ、わかりやすく発表する。（「思考・判断・表現」「話すこと（発表）」）
- ②各班の発表について、積極的にメモを取るなどして、相手の考えを的確に理解する。（「主体的に学習に取り組む態度」）
- ③「疑問詞+to不定詞」の用法について理解する。（「知識・技能」）

(2) 学習の基盤

【単元観】

本単元では、さまざまなボランティアや支援活動について考え、学ぶことができる内容が扱われている。したがって内容理解、音読練習を行った後に、本文で用いられている談話構造を分析し、利用することによって身近な課題について「高校生として何ができるのか」というテーマを設定し、自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えるという意味内容に重きを置いた言語活動（発表）を行うことが可能である。

また、帯活動として行う1分間チャットは、意見を伝えるという一方方向的な活動において、聞き手が相手の意見で分かりにくい箇所を聞きなおしたり、自分の意見を交えて考えを述べあったりする伝え合う活動の素地を育成するものとして期待することができる。



【生徒観】

… <個人情報保護のため省略> …



【指導観】

「NEW ONE WORLD Communication I」の LESSON 6 「We Are the World」の本文にある表現を適宜利用したり、説明で用いられている談話構造を分析し、活用したりすることによって、事実や自分の考え、メッセージから成る原稿を準備し、聞き手にとってわかりやすい発表をする活動を行う。また、グループでの学習を、他者の意見を聞いたうえで、「高校生として何ができるのか」というテーマについて各自がさらに思考を深めていけるような機会とする。

聞き手にとってわかりやすい発表を行うためには、一貫性や結束性のあるまとまりのあるパラグラフを構成する必要がある。本文のパラグラフを分析することでモデルとなるミニ・ディスコースを抽出し、その談話構造を利用することによって、自分独自の考えを適切に表現する方法を指導する。一方で、お互いに考えを伝えあう活動とするために、メモを取りながら

(3) 単元の評価規準

- ①身近な課題について、「高校生として何ができるのか」というテーマについて、自分の考えを英語でまとめ、発表できる。
- ②各班の発表について、積極的にメモを取るなどして、相手の考えを的確に理解している。
- ③「疑問詞+to 不定詞」の用法について理解している。

(4) 指導と評価の展開計画 (全8時間 本時 8/8)

ア: 知識・技能

イ: 思考・判断・表現

ウ: 主体的に学習に取り組む態度

時	○ねらい ・主な学習活動	評価				
		ア	イ	ウ	主な評価規準 (評価方法)	
					形成的評価	総括的評価
1	○本文の導入 ・”We Are the World”の歌を聴く ・文全体を通読することによる概要把握			○	本文の内容に関心を持ちながら、積極的に活動に取り組んでいる	
2	○本文 Part 1 内容読解 ・英問英答、T or F、読解プリントを利用した精読、各種音読、談話構造の分析	○			本文の内容を理解している	定期試験 (後日)
3	○本文 Part 2 内容読解 英問英答、T or F、読解プリントを利用した精読、各種音読	○			本文の内容を理解している	
4	○本文 Part 3 内容読解 英問英答、T or F、読解プリントを利用した精読、各種音読、談話構造の分析	○			本文の内容を理解している	
5	○文法・語いの整理 ・例文による文法ポイントの確認 ・文法ポイントを定着させるための例文暗唱	○			文法や語いについて理解している	
6	○音読 (Part 1 と Part 3) ○発表活動の導入 ・活動目的と意義の説明 ・地域課題についての英文解釈	○			談話構造を理解して発表をイメージしながら音読している	

	・2つの地域課題の提示				
7	○発表準備 ・班内での個人発表と原稿作り		○	○	発表の準備に際して、談話構造を意識しながら発表の仕方を工夫しようとしている（観察）
⑧ 本時	○発表 ・各班による発表		○	○	身近な課題について班で役割分担をしながら、自分たちの考えを英語で発表できる（パフォーマンステスト）

### （5）本時の展開

①ねらい テーマ：身近な課題について高校生としてできることを考え、発表する。

既習の談話構造や表現を利用して準備した原稿をもとに、テーマに対する班での意見を発表する。

#### ②展開

時間	生徒の学習活動	教師の活動と支援	評価
5	・Warm-up 1分間チャット	・発表に向けての準備となるような雰囲気作りに努める	
5	・本時のねらいと流れの確認 ・発表準備	・本時のねらいと、主たる活動の流れを提示し、発表の準備をさせる	
24	・AとBの2つのグループに分かれる A：地域課題① 1班～4班（各班4名） B：地域課題② 5班～8班（各班4名） ・グループごとに、他班から集まった12名に対して、4名で役割分担して、前時に作成したワークシートの内容を発表する（発表3分＋質疑2分）×4班	・発表方法について説明する ・対角線を作る教室の2つの隅を発表場所とするように指示する ・聞く際に、評価シートにメモを取るように促す ・各班の発表を観察する	【思考力・判断力・表現力】 観察・評価シート
5	・各班内で、評価シートを参考にして、自分のグループの4班のうち1番よい発表だった班を選ぶ	・Aグループ、Bグループで1番よい発表だった班を確認する	
6	・Aグループ、Bグループの代表班が、クラス全体に発表する（3分×2）	・どのような点で1番いい発表だったのかを意識しながら聞くように促す	
5	・振り返り Self-evaluation	・活動のねらいが達成できていたか（良かった点と改善点）について述べる	

## (6) 本時の評価

十分満足と判断される 生徒の具体例	おおむね満足と判断される 生徒の具体例	支援を必要とする 生徒への指導の手立て
原稿を全く見ずに、非言語要素（アイコンタクト・声の調子・ジェスチャー）を十分に活かして、本単元の表現や談話構造を使用した内容を発表している	原稿をほとんど見ずに、非言語要素（アイコンタクト・声の調子・ジェスチャー）を活かして、本単元の表現や談話構造を使用した内容を発表している	原稿を見る必要がある生徒に対して、 <b>Read and Look up</b> の形で発表するように促す

## (7) 授業研究の視点

教科書本文の談話構造を分析・利用することは、テーマを自分の身近なことと結びつけて考え、表現する力を育成するのに、効果的であったか。